

平成 24 年度

事業所名：グループホーム シリウス姫神

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154
法人名	株式会社 シリウスケアサービス
事業所名	グループホームシリウス姫神
所在地	〒028-4132岩手県盛岡市玉山区洪民字駅105
自己評価作成日	平成 24 年 11 月 2 日
評価結果市町村受理日	平成 25 年 3 月 18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0390100154-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24 年 11 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入所前の相談時に、認知症になってしまい、施設に頼まなければならない家族の切実な気持ちをくみ取り、尊厳と安心のある生活が出来るように、笑顔でそっと見守れる様な支援をすることを説明させていただいてます。地域の方とも、運営推進会議を等して繋がりが出来てきて、感謝です。これからも入所者の症状、体調、心境を理解しながら良い方向に向けて支援し、本人、家族が共に喜べるようにしたいです。看護師や、幅広い年代層の女性スタッフがおり、快適な生活を送れるように心がけ、地域に無くてはならないような上質なGHを目指しています。厚生労働省からの実地指導があり、取り組みや考慮している事(オムツはずし、ケアプランへの配慮)で、全国に奨励すると評価いただいた事は、何よりスタッフとも励みになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サンタウン洪民の住宅地の一角に所在し、近隣には消防署、玉山支所、クリニックが所在している。当事業所は、(株)シリウスケアサービスが運営しており、ほかに3事業所(平泉・前沢・水沢)を開所している。日常の支援では運営方針を分かりやすくキャッチフレーズ「笑顔でそっと見守る穏やかな日々を」としてまとめ上げ、全職員で意識しながら実践に向けて取り組んでいる。地域交流では、運営推進会議を積極的に活用し、保育園児、歌や踊りのボランティアなどの交流、近所の住民と挨拶を交わすなど広がりを見せている。支援では、利用者の希望や要望を把握し、個別支援に力を入れて本人・家族が利用して良かったと思うホームにしたいとしており、今後の取り組みが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 24 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目的や運営方針を掲げて、実現するために開始前に話し合い、家族の思いを込めて、キャッチフレーズにし掲示して実行してます（笑顔で、そっと見守る、穏やかな日々を目指します）	理念・目標の具現化のための合言葉を職員参加のもとに話し合い、「笑顔」「温かい見守り」「安心」「生きがい」「地域交流」に絞り、日々のケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児、踊り、民謡ボランティア等地域の方が「恒例にしましょう」と言って来てくれる様になりました。	地域の一員として暮していくために交流を深めたいと運営推進会議に提案し地域の集まりでの説明など、交流の輪を広げる取り組みの結果、理解が深まり敬老会などの行事以外でも声をかけてくれるようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターより、認知症予防教室があるので、認知症についてお話をする機会が出来ました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状を伝える事で、ホームの困っている事等も理解して頂き、解決に繋がってきています。詳しく地域との繋がりも出来るので、運営推進会議はとても良い会議だと思っています。	地域包括センター、地域住民代表（自治会長）地区住民代表（民生委員）ホーム長の4名で構成し2ヶ月に1回開催、利用状況の報告や課題を提案し積極的に活用して、ホームと利用者の理解に努めている。	会議を活用して地域交流が進展しており、次回は駐在署の方に計画している。課題やテーマごとに依頼するなど、施設の理解とサービスの向上に向けて、今後も継続されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請、更新時はもとより、地域ケア会議では、各種情報を頂き、サービスの充実に繋がって来ると 생각합니다。非常災害時の対応にも感謝しています。	介護保険課が主催する諸会議や玉山地域包括センターの主催するケア会議などに参加し利用状況などの情報交換を行っており協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルにて学習、理解し見守りや適切な介助で、身体拘束をしない援助をしています。	マニュアルにより、身体拘束の基本について研修を積んでおり、日ごろは、その時々での支援の内容を確認しながら取り組んでいる。玄関にはチャイムを取り付け、日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、マニュアルにて学習、理解し、虐待が起きないように注意し、研修などにも参加して、職員の意識向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する方がありましたので、資料を参考に勉強会をしました。補助人の方からも家族が上手く繋がったと話されました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するには、利用事前調査を行ない、家族や本人の意向を確認し、契約の時には重要事項説明書にて、必要事項を納得、安心できるまで分かりやすく説明する事にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いは日々感じとったり、家族からは電話や、面会時、お会話を聞き確認し、皆の声の箱を設置したりしています。運営推進会議にて報告し、ご意見を頂きながら運営に役立てています。	利用者からは支援の過程で、家族からは面会の際に意見や要望などを聞く機会をつくり運営に反映している。家族からは、なんでも話のできる雰囲気であり、親しみやすいホームであると言われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の変化に注意し、職員と常にコミュニケーションを図りながら意見をもらい、職員会議で確認し、実績報告会議にて報告し、運営に役立てています。	申し送りノートを活用し、職員会議で聞く機会をつくり、無断外出への対応、誤嚥、勤務体制などについて全職員で話し合い改善して運営に反映させている。なお、取り組みの状況は本社に報告し共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員の日々の生活状況を良く理解、把握し、各自の能力が発揮しやすいように環境整備し、代表者に報告している。代表者が良く理解してくれるので職員のやりがいにも繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開所前に、基本的な事はマニュアルにて内部研修し、外部研修は順番に参加出来るようにしています。管理者は、職員が自ら学ぼうとする事を大切にするよう話しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に入会し、意見交換会、勉強会、交換研修なども行なって、運営推進会議に参加したりしながら、良い刺激になって仕事の意欲にも繋がってきています。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊急性の高い状態で入所される方が多いので、納得のいくまでお話を聞く事にしています。自分を納得させる言葉が見つかるまで、声がけも大切にし、根気強く対応することになっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、家族の思いを受け入れて、事業所で行なえる事を説明し、ホームの運営方針を理解納得して頂く事で安心されます。業務も的確に行なう事で、信頼関係が築けると思い努力しています。、		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と、家族が必要としている事を感じ取り、GHの特質を説明し、必要としている支援が受けれる事を説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守り、見守られながら、共に広い範囲の会話を心がけています。家族のように、見守られている事を感じる事があります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	医療機関の通院介助を行なってくれたり、定期的に面会に来てくれたり、家族、兄弟、親戚の方も来てくれたりと多くの方が、来てくれます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が、行きつけの美容院に連れて行ってくれたりしています。かかりつけ医に行くとき顔なじみの方に声をかけてもらったりしています。	墓参りには家族の協力で、美容院には家族が同行できない時は職員が同行、また、ホームに親戚や友達が遊びに来ることもあり、個別に利用者の生活歴を把握し関係が継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が通じなくても、「お友達になりましょう」と言って手をつなぎ一緒にテレビ観たりする方や、「ここに連れてきてお話ししましょう」と言って利用者同士が仲良くしています。そっと見守っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、お世話になったケアマネさんを通して、次の入所者へ繋がったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用初めに確認しますが、状態の変化を見逃さず、要望を把握しケアに反映させています。満足度調査も意見を確認する手段にしています。	利用時に本人・家族から聞くとともに、支援の内容や行動について個別ケースに記録し、その情報を職員で話し合い、困難な場合は親戚など関係者から情報を得たりして検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、CM、本人、家族、面会時の身内の方等から教えていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を参考にしながら、日々の介護場面においても、日内変動に注意し、有する力等を発見して、職員からの情報も加え、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録やモニタリングを参考にしながら、毎月の職員会議で、ケース検討し、介護計画に取り入れています。本人、家族からの言葉、思いをプランに入れる様心がけています。	本人の状況を、職員会議で検討し確認しながらケアプランを作成している。通常は3ヶ月ごとに見直しているが、身体の状態に急激な変化があればその都度見直し、評価表により家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送り帳を活用し、ミーティングしながら、計画作成者はモニタリングを記録し、職員間で情報を共有して、プランの見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症のある方が入院、手術必要な時は付き添いが必要になると話され、家政婦紹介所の手配や保証人等ぎりぎりまで援助した。家族に感謝されました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民謡が好きで得意な方の、身内の方がボランティアで来てくれたりしたので、皆の前で思いっきり歌う事が出来て。「私は幸せだ」と言ってくれた事。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に受診介助したり、家族が連れて行ってくれたり、状態の急変時は家族と連絡とり合いながら対応し、その看護師に「シリウスさんはどこよりも良くやっている」と話された。	通院は家族付添いが原則だが、半数は職員が行っている。本人・家族の希望するかかりつけ医で、症状を口頭や記録により医師に説明している。家族が同行する場合はメモを渡し受診しており、医療とは良好な関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームには、看護師が介護職で勤務しており、介護職、看護職のつながりが強いいため、利用者への支援も適切に行えていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の通院、緊急時の入院出来る病院、その後の入所施設、地域包括支援センター等の連携も出来ているので、家族も安心されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時には、その状態に会う対応することを入所時に説明しています。家族も納得しているので、その時期には状態にあった施設や病院の相談をしながら、スムーズに対応が出来るようになりました。運営推進会議も活用しています。	契約時に、重度化や終末期の対応は困難であるが、体制の整った他の施設や病院への入院など、家族とホームが情報を共有しながら相談にのり支援していくことを説明し理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所前に、事故発生時対応マニュアルにて学習し、消防署の指導のもと心肺蘇生法を受講し、看護師からもその都度教えてもらっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルにて、開所前に学習し、避難方法は、年2回昼夜の時間帯を想定し訓練しています。地域の方の協力体制は、運営推進会議で教えていただきました。	そばに消防署など公共機関があり、夜間等の緊急時の連絡体制は整っている。消防署員の立会いで、利用者と職員による避難訓練を実施している。住民の協力体制は運営推進会議を活用し築いている。	スプリンクラーなど設備を充実し、住民の協力体制も築き、職員も安全な避難誘導のため訓練している。今後は建物内部や利用者の理解を得るためにも住民の参加を得て実施されることを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関するマニュアルにて開所前に学習し、職員も常に声かけや対応に注意しています。	トイレの誘導では本人を傷つけないよう、入浴では衣服の着脱に注意し、言葉の虐待に気をつけながら支援しており、管理者が気づいた時は申し送りで全職員に注意を促し意識付けしながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、思いやりを持って職員は対応し、信頼を得るようにして、思いや希望を聞きだしやすいようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分によって変化することも考え、入浴なども、毎日行なって順番や、入ることも自由に選んでもらっています。塗り絵をしたり、テレビ観たりと自由に過ごされています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活レベルの高い方も入所されており、身だしなみについては注意しています。自分の気に入った物を買ったり、美容院に行ったりしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所前に好みを確認しますが、満足度調査で確認したり、脳トレゲームで聞いたりしながら季節感を感じています。畑の野菜を散歩がてら取りに行ったりしています。	食事時のお茶入れ、テーブル拭きなど力を発揮できる場面をつくり、畑で収穫した野菜を食材に利用し、職員も一緒に食卓を囲み、食中毒など衛生面に気を配り、食材をチェックしバランスの良い食事に心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は、個人差があり盛り付けや、量には注意しています。栄養バランスもチェックしながら作っています。水分は記録しながら適切に摂れるように特に注意しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分の歯がある方もおり、口腔ケアは毎食後、全員が行なっています。夜間は入れ歯を洗浄液につけて清潔保持しています。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の問題を抱えて入所された方もあり、衛生用品の勉強会を行ない、その方の生活パターンを考慮しながら、トイレ誘導行ない、清潔な生活が出来るように支援しています。	排泄チェックシートを作成し、利用者個々のパターンを把握しながら朝、食事前など定時に職員がトイレ誘導し、排泄の自立に向けて積極的に支援し、布パンツに移行した例も見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給のチェック、朝牛乳、排便間隔の確認、下剤の調節をしながら、トイレ誘導して排便感覚の無い方もトイレで排便できるようになった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っており、個人の希望を取り入れながら、その方に応じた入浴方法を行なっています。必ずバイタルチェックしています。	入浴は一日おきで、午前11時から午後16時までとし、体調管理に気を配り、必ず付き添いコミュニケーションを図り、心身のケアに努め支援している。また、希望があればいつでも入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、居間でくつろいでいる方が多いです。部屋で休まれる方もあり、自由に休憩されています。夜間は、音、温度、その他の障害に注意しながら見守っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に受診し、服薬は受診時に確認してきた事を申し送り、職員は周知している。受診前には、スタッフに症状も確認し、適切な症状を医師に伝え服薬支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、テレビ、塗り絵、編み物、自分のペットメイク、洗濯物たたみ、新聞たたみ、集団でのリハビリ体操、脳トレ、歌、ゲーム等出来る範囲で行ないながら生活されています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	床屋さん、美容院、ショッピングセンター、花見、お盆のお墓参り、紅葉狩り等の外出支援を行なっています。外出すると発熱することが多くなってきました。	利用者の外出希望は多くはないが、普段は建物周辺や畑仕事の機会を捉えて散歩し、その日の気分によりショッピングセンターの足湯に出かけたり、家族の協力を得たり、ドライブに出掛けたりして外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分のお金で支払いする事や、家族からおこずかいもらう楽しみ等が、来ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に外線からお友達等からの電話があります、こちらからは、番号を言ってもらってかけてあげてます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかな気持ちで生活出来るように、色彩にも注意しました。常に清潔を心がけています。不快で、危険な生活空間にならないようにスタッフ一同細かな所にも注意しています。	天井には明り窓を取り付け、食堂兼ホールからは景色が眺められ、畳敷きの空間をつくり縁側を設置、一方にはテーブルと椅子を配置し花壇や畑が眺められ、採光や内壁にも配慮し落ち着いた雰囲気の中で安心して過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭の見える部やに数人集まって、外眺めたり、お話したりしています。テレビの前のソファは人気があります。大きな窓の所に集まって、自由に利用されています。写真なども見えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具、テレビ、寝具を持って来て使われています。手作業で作った作品を所狭しと貼っている方もいます。それも良いかと思っています。	フローアーは床暖房で、利用者はベッド、タンス、位牌などを持参し、壁には行事の写真や日中の活動で創作したぬりえ、折り紙など自分の作品を飾り、落ち着いて暮せるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過剰な介護に注意し、見守りながら危険はさりげなく回避し、プライドを重視した支援が出来るように心がけています。		